

# せったん

第 119号 2009年1月5日

発 兵庫県保険医協会北摂・丹波支部  
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31  
神戸フコク生命海岸通ビル5階  
行 ● Tel.078-393-1801(代) fax078-393-1802



あけましておめでとう  
あけましておめでとう  
あけましておめでとう



## 地域とともに要求実現の年に

北摂・丹波支部長 森下 順彦



新年おめでとうございます。

北摂・丹波支部では、昨年も院内感染対策研修会や会員懇談会、レクリエーション企画「ガラス工芸」体験をはじめとして活発に支部活動を進めて参りましたが、それぞれの企画に毎回多くの先生方、スタッフの皆さんにご

参加いただきましたことに改めて感謝申し上げます。

また、300人を超える市民の参加を得た三田・篠山・丹波3市の「シッコ」上映会や支部も加盟している「篠山市の医療をよくする会」の取り組みの成果もあって兵庫医大篠山病院も正式に存続が決まるなど、それぞれの地域で保険医協会の存在感が高まった1年でした。今年もさらに地域の方々との連携を強め地域医療の改善に取り組んでいきたいと思っております。

さて、金融危機に端を発した不況は今年も引き続く様相を呈していますが、「医療崩壊」の危機打開も待ったなしです。そのような情勢の中で麻生内閣はもはや政権末期の状況となり政界再編の声も出ていますが、先延ばしされた解散総選挙も遅くとも今年の9月までには実施されます。

今年こそ「後期高齢者医療制度廃止」、「5分ルールの廃止など診療報酬緊急改善」、「レセプトオンライン請求義務化中止」、「休業保障制度の保険業法の適用除外」、「無保険の子解消」など私たち開業医の要求実現とともに、社会保障の国づくりへと政治を転換する年にしましょう。

引き続き先生方の協会・支部活動へのご参加、ご協力をよろしくお願い致します。



講師の尾内康彦氏(大阪府保険医協会事務局次長)



## 会員懇談会

# 医療機関のトラブル対策

～特にモンスターペイシエントに対して～

支部では、12月6日に三田市・キッピールモールで会員懇談会「医療機関のトラブル対策」を開催し、41人が参加した。塩谷朋弘先生(シオタニレディースクリニック・三田市)の感想文を掲載します。(兵庫保険医新聞1月25日号掲載予定)

### 【感想文】

最近、多くのマスコミの記事で「モンスターペイシエント」・「モンスターペアレント」・「モンスターコンシューマー」などの文字をよく見かけるようになりました。

この度のお話にあつたように非社会的組織の方や精神疾患の方の対応はプロにお任せするしかないと思います。しかしその他の「モンスター」は「人」であればこそ十分話し合いで解決できるということなのです。

以前は患者を呼ぶ時は「様」付けにしたり、顧客至上主義のサービスを展開することが当たり前のような風潮がありました。こういったことで患者を甘やかせ過ぎたことが原因という方もいるようですが、実は人の心の中には常に「モンスター」が棲んでいて、それが表に出てきやすくなっただけではないでしょうか。私自身も消費者として日常生活の中で心の隅で小さな「モンスター」が蠢いていることが多いように思っています。



す。誰もがモンスターになる素因を持つているのだと思います。

「モンスター」への対応は病気と同様でその予防が肝要と考えます。心の中心に潜むモンスターを呼び起こさないようにするためにはやはり相手のことを思いやる対応が一番の予防ではないでしょうか。「忙しい」という文字は「心」を「亡」くすと書きますが、仕事やその他のことに追われ忙しいことを言い訳にして、つい相手のことを思いやることを忘れてがちになってはいませんか。この度はどうやってトラブルを回避できるかとその手段を知ろうとしておりましたが、医療人として自己反省を促されることとなりました。

※好評につき「医療機関のトラブル対策パート2」院内トラブルを1月24日(土)午後6時、三田市キッピールモールにて開催します。是非ご参加ください。



キッピールモール多目的ホールに41人が集まった

三田市

# 「子どもには保険証の交付を」 ～無保険の子解消へ三田市国保課に要請～

国会でも取り上げられた「子どもの無保険」問題で、12月17日に森下順彦支部長が「資格証明書が交付されている世帯の子どもにただちに被保険者証を交付すること」を求めて三田市国保課へ要請した。

森下支部長は「9月の厚労省の全国調査では中学生以下の子どもへの資格証明書の交付が三田市で14世帯となっている。国会でも制度見直しの方向で進められているが、法改正を待たず子どもが必要な医療を受けられない状況はただちに改善してほしい」と訴えた。応じた今井国保課長は「調査後も実態把握に努めており、現在対象となっている子どもは3世帯6人となっている。うち1世帯とは



12月17日 市の国保課を訪れて、要請書を手渡す森下順彦支部長

現在まで接触できていないが、あとの2世帯は生活困窮である旨の申請をしてもらえばすぐに短期証を発行できるようにしている」と市側の対応を説明するとともに、「正式に国保法が改正された場合は、現在の市の制度(3カ月間の短期証発行)との整合性を図りたい」とした。

支部長からは「今の経済状況のもとでは生活困窮世帯の子どもが今後も増えることが予想される。一層きめ細かい対応をお願いしたい」と重ねて要請した。



講師の小川麻由美氏

看護師の小川麻由美氏。田中潔先生(田中内科医院・丹波市)の感想文を紹介します。

(兵庫保険医新聞1月5日号にも掲載)

講演は院内感染のスタンダードプロシヨ(標準予防策)にはじまり、手洗いから手指の消毒、防護具の取扱いなどの感染予防対策と、これから冬場にかけて発生が予想される飛沫感染によるインフルエンザや、接触感染によるノロウイルス感染症の対策など、今後の日常診療に役立つ身近な内容で、大変参考になり良い勉強をさせていただいた。

講師は済生会兵庫県病院感染管理認定看護師の小川麻由美氏で、氏が実際に日常現場で実行しておられる体験に基づき、多くのスライドや動画を駆使してお話しいただき、大変わかりやすくよく理解できた。

【感想文】  
兵庫県保険医協会北摂・丹波支部の院内感染対策研修会が、11月15日(土)三田市キッピーモール6階多目的ホールで開催された。当院でも院内研修の一環として、従業員と一緒に参加させていただいた。私も初めての参加だったが、この研修会は今回が3回目ということであった。会場は61名の聴衆で、満員の盛況だった。

研修会終了後の帰り道、従業員たちと自院の感染対策の不足の箇所や物品などについて、講演内容を振り返りながら大いに話の花が咲いた。  
医療安全管理や院内感染対策については、年2回程度の研修を実施することが求められている。  
今後も保険医協会のこのような研修会にぜひ参加させていただきたいと思っ

日頃気をつけているつもりでも、つい油断してしまいう感染対策への注意喚起や、新たな知識の吸収など、得るところの大きい研修会となった。

研修会終了後の帰り道、従業員たちと自院の感染対策の不足の箇所や物品などについて、講演内容を振り返りながら大いに話の花が咲いた。  
医療安全管理や院内感染対策については、年2回程度の研修を実施することが求められている。  
今後も保険医協会のこのような研修会にぜひ参加させていただきたいと思っ



キッピーモールに61人が集まった

第3回目になる感染対策の研修会には、お忙しい中多数ご参加していただき、ありがとうございます。皆様方の感染対策への熱心なお姿に触れ、こちらも身の引き締まる思いがいたしました。  
今回は主に冬の感染症である「インフルエンザ」と「ノロウイルス」の対策についてお話をさせていただきましたが、今後インフルエンザが流行し始めたときの環境整備について、少し触れておきたいと思えます。ノロウイルスはアルコールには効かないとも言われますが、インフルエンザに対しては、アルコールベースでの清拭が効果的です。人の手がよく接触する環境表面(ドアノブや手すり、椅子やテーブルなど)を中心に清拭してください。  
さて、いよいよこれからが冬本番です。寒い季節で免疫力も低下しやすいため、手洗い、うがいを日頃から心がけ、休息を十分に取ってこの冬を乗り越えましょう。また、咳をしている患者さんにはサージカルマスクの着用を促すなど、咳エチケットを行い施設内の感染対策に注意を払ってください。  
今回の研修会が、皆様の施設での感染対策のお役に立てば幸いです。  
この度はありがとうございました。

小川 麻由美